

暁 星

第53号

7.2.28

発行
島根県立平田高等学校
暁 星 会
印刷
(有)西村印刷

前に進めば道は広がる* 自分の道を切り拓こう



会長 山下 壮一

暁星会会員の皆様に於かれましては、日々ご健勝にてお過ごしのことと拝察致します。

平素より当会及び平田高校に対しまして、格別のご支援とご協力を賜わり衷心より厚く御礼申し上げます。

今年度ご卒業され新しく暁星会にご加入を頂きました皆様方に対し、在籍会員一同、心からご入会を歓迎するとともにお祝いを申しあげます。これからの人生行路は、自らを信じて何事にもチャレンジをして歩んで頂きたいと思っております。同窓生としてのご活躍とご健勝・ご多幸を祈念いたします。

平田高校は今年度開校以来百八年を迎え、卒業生は一万八千人を超えるに至っています。今後の更なる発展を期待してやみません。

さて、この五年間続いた新型コロナウイルスの影響も、ようやくにして収まりの状況が見られる昨今となりました。会員の皆様には失礼ばかりを重ねて大変に心苦しく思っています。平田高等学校に於きましては学業やクラブ活動に於いても大変な日々だったと思います。

そのような中で、令和六年三月に伊藤康子校長先生がご転勤になり、後任には野津孝明校長先生がご就任になりました。ご就任以来ご熱心に学校運営に取り組まれると共に、地域の状況を把握する為に各施設を訪問し積極的に住民との触れ合いをなさる等、地域共同学習の推進にもエネルギーな活動をなさってらっしゃいます。暁星会・後援会としても「学校と地域の一体感」を得る為に大変に有り難く思っています。

約五年間に及ぶコロナ禍で、体育部・文化部共に部活動が制約される場面も多々在りましたが、開催された各種の大会等に於いては国際大会に出場するなど、それぞれに素晴らしい活躍を致しました。それらの活動内容は別欄にてご報告をしています。是非ご覧下さいませ。

昨年の九月二十九日に野津校長先生とご一緒に「東京平高会」に出席を致しました。大島会長様をはじめ、会員皆様に心からのご歓待を受けながら楽しいひと時を過ごさせて頂きました。

皆様の明るくお元気なご様子に大変うれしく思いました。母校・平田高校や懐かしい故郷への変わらぬ愛情に対しても、



嬉しさや感謝の気持ちで一杯でした。また、十月六日には近畿平田会に出席致しました。近畿平田会に於かれましては、毎年沢山のお方がご参加をなさり、盛大に開催をされています。楽しく旧交を温める事が出来ました。

近畿地方ご在住の卒業生を始め、平田地域及び島根県ご出身の沢山の皆様方に毎年「全国高等学校駅伝競走大会」に於いて、温かい応援をお寄せ頂き、昨年もコースの京都・都大路各所にて大きな声援を掛けていただきました。選手達は元より、関係者一同「生涯の思い出」と感謝をしています。

近年の少子化による生徒数の減少により、島根県に於いても公立高等学校の統廃合が行われています。出雲市内では、普通高校三校、専門高校三校、私立高校二校の合計八校が在ります。平田高校を考える時に、十年・十五年後の存続が懸念される状況です。これらの問題は、暁星会及び後援会としても地域と共に注視していかねければならない重要な課題であると考えています。

「学校創立百十周年記念事業」も今年度より準備を始めなければなりません。会員ご一同様のさらなるご支援とご協力を賜わりますようよろしくお願いを申し上げます。

結びに寄せ皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げましてご挨拶いたします。

♪新しき明日の世紀は
友よ我が手にて創らん#



あえて、違和感と揺さぶりを

校長 野津孝明



暁星会会員の皆様には、平素より本校の教育活動に對しましてご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。この場をお借りしまして、まずはお礼申し上げます。

私 4月1日付で本校校長職を拝命しました野津と申します。3月末までは島根県立隠岐島前高校の校長として勤務しておりました。着任当初は1年程度じっくり学校の様子を観察し、「その後に動きだそう」と考えておりましたが、泳ぎ続けるマグロのごとき前任校長からの着任に加え、自身の出身が隠岐ということもあるのか「言いたいことを我慢」、「ゆつくり構える」ことはできませんでした。峻別しつつも対応できるものは可能な限りスピード感を持って提案させていただきました。本校ホームページに「校長室より」というコーナーを設けました。平高の近況に合わせ、私の思いも紹介しておりますので、お時間ある際にご覧いただけると幸いです。

令和6年度は、4月に入学定員の160名を新入生として迎え、全校444名でスタートしました。「元氣」を合い言葉に生徒とともに踏み込む姿勢での学校経営を推し進め、その実現に向けて私的な学校経営スローガン「3つの『たい』をかなえたい」を設定しました。本校の学びの肝は平田商工会議所との連携協力に基づいた地域協働学習、県内大学を中心とした

進学実績や部活動における全国大会出場等が挙げられますが、これらのすべての教育活動は「中学生が進学したい」、「保護者が入学させたい」、「地域の方々が応援・協働したい」と思える学校への昇華がゴールです。そのために私は「あえて違和感と揺さぶり」を生じさせたいと考えています。すでに保護者ならびに地域の皆様には生徒たちの応援団となつていただいておりますが、地域の方々との交流を第一としつつも、現状から一歩踏み込む際には意識的に「違うもの」をその場に持ち込むことが必要であると考えています。

この地域における「当たり前」と異なるものは、時に違和感を生じさせる。それをきっかけとして、物事が揺らぎだし、新しい何かが生まれることがある。「先の見えない、変化の激しい現代」を生きる生徒たち、地域と協働して持続可能な地域づくり等に参加したいという気持ちを高めつつ、地域の方々や生徒・教員等の多くの人たちとの出会いのなかからふと感じる「違和感」を大切に、そしてきっかけとしてさらなる一歩を踏み出して欲しいと願っています。チーム平田高校の作り方は、出雲・平田圏の地域文化やこれまでの学校文化の基礎は抑えた組織づくりの方針を持ちつつ、私のこれまでの経験や出生地である隠岐文化の要素も時折持ち込み「違和感を生じさせる」ことに次年度もあえてチャレンジさせていただきます。

結びに暁星会会員の皆様にはこのたび暁星会会員となる卒業生にご指導ご鞭撻を賜り、学校外から母校を見守るよき応援団となるべくご教示いただければ幸甚でございます。今後ともよろしくお願い申し上げます。

部活動

上位大会 出場者から

柔道部

「インターハイと フランスジュニア 国際大会に出場して」

柔道部 3年 福田さくら



私は平田高校に入学した時、日本一になることを目標にしました。入学してからは柔道だけでなく、普段の生活も大切にして毎日を通り努力を続けてきました。なかなか大きな結果に結びつきませんでした。2年生の秋には、階級を変えて挑戦するという大きな選択をし、高校最後のインターハイで全国の強豪選手たちに勝ち、準優勝という結果を手に入れたことができた。優勝を目指していたので、あと一歩のところまで届かず、悔しさも残りましたが、これまでの長く苦しい時期がやっと報われて本当に嬉しかったです。また、この結果を受けて、憧れだった全日本強化選手に選出されました。

そして昨年12月には日本代表としてフランスジュニア国際大会に出場する機会

をいただきました。初めての海外遠征では、日本とは異なるタイプの選手と戦い、貴重な経験を得ることができました。結果として、メダルに届かず悔しい思いをしました。この経験は必ず今後の成長につながると思います。また、日本代表として一緒に遠征した選手たちとの交流から多くの刺激を受けました。



これらの成果を出すことができたのは、日々支えてくださる皆さんのおかげです。ありがとうございます。これからも柔道を通じて自分を磨き、恩返しができるよう努力を続けていきたいです。大学では日本一を目指して頑張ります。



陸上部

「全てをかけた インターハイへ」

陸上部 2年 佐々木葉音

私は7月28日から8月1日に福岡県博多の森陸上競技場で行われたインターハ

イ800mに出場しました。高校1年生のインターハイでは準決勝まで進んだものの、全国大会のレベルの高さを目の当たりにし決勝に進むことができませんでした。悔しい思いを胸にこの1年間、2年生の時に絶対決勝に進むことを誓い、苦手な長い距離にも積極的に取り組みスタミナを強化し、スタートで出遅れることがないように普段のメイン練習後のスプリントは全国を見据えて毎回レースをイメージしながら走るなど、日々の練習から意識的に行いました。

迎えた予選当日。違う種目で出場した先輩がいい流れを持ってきてくれたことで自然と気持ちも前向きになりました。緊張もしていましたが、楽しみな気持ちの方が圧倒的に強かったです。また、暑さ対策も必要となった福岡では、アップまでの過ごし方、アップ中の暑熱対策など細かいところまで気をつけました。昨年は初めてのインターハイで不安がある中で走りましたが、今回は綿密に準備していたことやそれまでにサポートしてもらった仲間の力が支えとなり、自信を持ってスタートラインに立つことができました。予選では、昨年から目標としていたけれどなかなか出すことができなかった、2分1桁台の2分9秒29での自己ベストを1年ぶりに更新したことが率直に嬉しかったのと同時に、ゴールしてから余力が残っていたことがこの1年間コツコツと地道に行ってきた練習が確実に自分の力になっていることを確信し、さらに次の準決勝ではもっといいレースができると自信が持てました。準決勝では、自分より持ちタイムが速い選手でも負けたくないという気持ちで中盤から先頭で

てレースを展開しました。結果として予選に続き自己ベストを更新し決勝へ駒を進め、ホツとした気持ちになりましたが、すぐに翌日の決勝に向けて新たに気持ち切り替えました。翌日の決勝では今まで何度も聞いたことがある選手が勢揃いの中、私は張り詰めた空気を感じつつも普段通りに準備し、この大会にすべてをかけた思いで挑みました。この1年間ずつと決勝という舞台に立つことを考えていた私にとって、いつも支えてくれる家族や、コーチ、部員、先輩方を感動させる走りが見たい、期待に応えたいという一心でただひたすら前だけを見つめて走りました。最後まで集中を切らさず、3位という結果でゴールしましたが、2番手の選手の背中がすぐ目の前だったので抜けなかったという自分の弱いところが出てしまい、最高の結果で終わることはできませんでした。2年生で様々な経験をさせていただき、来年に向けて基礎を1から磨き上げて、新たな目標である全国優勝を成し遂げます。これまでたくさんの方々を支えられ、苦しい場面でも乗り越えて来れたのは紛れもなく自分だけの力じゃないので走りでも恩返しができる選手に私はなります。



駅伝部

「3年間の集大成」

駅伝部 富岡 成望

全国高校駅伝出場にあたり沢山の応援ありがとうございました。

男子は2時間9分25秒で35位という結果となり平田高校としての過去最高タイム、順位を更新しました。昨年は1、2年のチームで実力的にも行動的にも未熟でしたが1年間一人一人が成長しました。そして過去の経験もある状態での出場ができました。

今シーズンを振り返ると3年を中心にチームの方向性が整った状態で質の高い練習を継続することができました。故障や体調不良など練習を継続できないメンバーもいましたが昨年よりは練習を毎日することが普通という考えがチームの核にあったと思います。11月に行われた全国高校駅伝の県予選では大雨の影響でトラックレースの合計タイムで争うというイレギュラーな予選会となり過酷な気候コンディションの中でした。県予選では3年が他校に負けてしまい気象コンディションを加味したとしてもタイムが悪かったです。そこからもう一度気持ちを直して一つの練習を大切にポイントも確実に消化していくことができました。中国駅伝では県予選から大きくメンバーを変更して出場しましたが前半の流れを中盤で崩してしまい9位でした。島根県の優勝校であり県代表として恥ずべき結果となりました。このような結果になっ

たのは県代表としての自覚がなく明確な目標を早いうちからたてることができずただ練習をしてしまっていたからだと思います。

全国高校駅伝の10人の登録メンバーを発表された時は他のメンバーの想いも考えてこれから練習していこうと決心しました。その後も継続してメンバーだけでなく部員全員が高い意識で練習しました。

京都に向かうにあたってさらにチームの意識を高め、万全な状態で戦うためにミーティングを行い学年関係なく話し合うことができました。京都ではだんだんと気の緩みが出てしまっている部分もあり大会に向けて状態を整えきれないところもあつたと思いました。ですが3年生の多くは今大会が最後となるということ

でその気持ちの強さをレースで表現できました。前半で昨年のような遅れをとることなくレースの流れにのり最後まで棒を繋ぎ切ることができました。今回からルール変更があり地区代表も毎年ということに厳しい戦いとなることを予想していました。500メートルの持ちタイムの平均では50位でした。でも駅伝だからこそ35位にはいれたと思います。駅伝は流れが重要だと本当に思います。女子の長野東高校さんは持ちタイムでは神村学園さん仙台育英高校さんに遅れをとっていたけれど一区で流れを引き寄せるとそのまま1度も先頭を譲ることなく優勝されました。私たちも1、3区の3年で必ず良い位置につき後半区間に繋ぐと決めてそれを体現することができ嬉しかったです。

今大会も現地だけでなくさきまきまところから沢山の皆さんが平田高校駅伝部を

応援してくださり愛されていることを再確認しました。そして今回何も不自由なく出場できたのは先生やコーチ、保護者さんのおかげです。そのような方々に恩返しのため走りですすが感謝の気持ちを伝えられたと思います。そして3年最後最高のチームメイトと最高の思い出を作ることができました。

今年作ることができた良き伝統をさらに発展させて繋げていってほしいというのが私の願いです。そのためには視野を広げて島根のレベルで陸上に取り組みむのではなく毎日の練習を全国でいかに勝負できるのかを考えて活動してほしいと思います。そして自分の固定観念に囚われないで自分自身の心の殻を破って



写真部

「写真甲子園を通して」

写真部 3年 伊藤 凛



私たちは昨年の夏に北海道で行われた写真部の全国大会「写真甲子園」に出場しました。写真甲子園は各高校3人1組になり作成した組写真が審査され、初戦審査とブロック審査を勝ち抜いた代表校が北海道に集まり本戦が行われます。1年生の時に写真甲子園について知り、2年生の時に初挑戦しブロック審査に進むことができたが、あと1歩のところまで本戦出場は叶わずとても悔しい思いをしました。その後、初戦審査に向けての作品作りを始め、日常の中にある気になる風景をテーマに撮影や話し合いを続け、応募作品を作りました。その作品で初戦・ブロック審査どちらも突破し、念願の本戦出場が叶いとても嬉しかったです。出場が決まってからは、さらに組写真の作成や人を撮る練習を重ね本戦に備えました。

本戦3日間では、出場校が同じ場所、同じ条件で撮影し組写真を作成して競います。旭岳や美瑛、富良野など北海道を代表する場所で撮影することは新鮮でとても楽しかったです。ただ、私たちは人を撮ることに慣れておらず、街中で人に声をかけて撮影させてもらうことに苦戦しました。写真甲子園では現地の人とコミュニケーションをとりながら写真を撮影することが大切です。3人で相談したり、アドバイスをもらったりしながら勇気をもって人に声をかけて撮影をしました。初対面ながら、快く撮影を受けていただいた人といういろいろな話をしながらの

撮影は楽しく、味のある写真を撮ることができたと思います。また、自分たちの大切にしてきた淡く空気感を感じることができた写真のイメージを常に意識して、焦らずに自分たちのペースを保つことが大切だと実感しました。特に、ホームステイ先のご家族を撮ることで、人と向き合って写真を撮る楽しさと新たな挑戦をする喜びを実感することができました。大会での審査は、作品を提示するだけでなく、撮影意図や作品に対する思いをアピールします。そのアピールで自分たちの伝えたいことがきちんと伝わるように熟考しました。審査会では、審査員からの時には厳しいコメントもありましたが、その講評で自分たちが気づかなかった新たな視点や観点などを知ることができ、自分たちの表現力が成長したと思います。写真甲子園を通して他校の選手、スタッフの方、地元の方などたくさんのお会いがありました。北海道という広大な地で行われる大きな大会に出場できたことにとっても感謝しています。ありがとうございました。

文芸図書部

「全国総合高等学校文化祭（文芸部門）に出場して」

文芸図書部 3年 野津 咲月

今回の総合文化祭の俳句部門では人生においての俳句の存在について学ぶことができました。俳句部門で講師をしてくださった西田先生は、俳句をすれば誰もが幸せになれると話しておられました。私は今まで高校生活の部活としてしか俳句に向き合ってきませんでした。しかし西田先生のお話から、今後の人生でも私なりの表現と好みを大切にして俳句に触

進路の状況

進路概況(延べ数)

卒業年度	R3年度		R4年度		R5年度	
	現役生	過年度卒	現役生	過年度卒	現役生	過年度卒
合格先						
入学者数	国立大	9	6	16	2	21
	公立大	20	2	23	1	25
	私立大	70	6	38	4	54
	文科省所管外の大学校			2		2
	公立短大	8		1		5
	私立短大	5		9		5
	文科省所管外の短期大学校			1		
	看護学校	6		13		7
就職者数	その他	15		21		17
	計	133	14	124	7	136
	企業	3		2		2
	公務員	4		5		2
未定卒業者数	計	7	0	7	0	4
	定数	8		2		4
卒業生数	148	14	133	7	144	3



れていきたいと思うことが出来ました。また、飛騨高山と飛騨古川という昔からの自然と文化が生き続けている地域の空気を肌で感じながら、全国の方々と文芸の知識を高め合うことができ、とても良い経験となりました。交流会では各々で俳句を詠み、互いの俳句について本人も気付かないような情景の考察や感想を伝え合えたことがとても楽しく、強く印象に残っています。この経験を忘れず私の文芸の世界をこれからもっと広げていきたいと思っています。

最近の話題



3年福田さくらが女子63kg級において見事、銀メダルを獲得しました。



平田高校卒業生の清水卓郎氏の長女清水さくらさんが12月に行われたスノーボードのワールドカップで優勝し、2026イタリア・コルチナ冬季オリンピックを目指しています。応援よろしくおねがいします。

令和6年度部活動の成績

【体育系部活動】

島根県総合体育大会(インターハイ予選)

●バレー部

1回戦 平田 2－1 隠岐島前
2回戦 平田 0－2 浜田

●陸上競技部

【男子】

三段跳 2位 三島偉道
8位 荒木裕翔

【女子】

100m・200m 3位 玉木麻裕
100mH 8位・走高跳5位 中村美琴
やり投 4位 高見真白
砲丸投 4位 伊藤綺華
5位 多久和心
七種競技 2位 伊藤綺華
4位 高見真白
4×400mR 3位 高見・玉木・大浜・佐々木

●駅伝部

男子

800m 4位 遠藤光基
5位 勝部心温
1500m 1位 岩崎輝翔
2位 井戸琥太郎
3位 石飛翔悟
5000m 1位 富岡成望
2位 福岡健太
3位 古藤太一
3000mSC 3位 高橋宙暉
7位 渡辺結希
8位 岡 真優

女子

800m 1位 佐々木葉音
4位 大浜歩花
7位 杉山あき
1500m 1位 佐々木葉音
5位 小村実加
6位 福田美紅
3000m 1位 嘉藤 杏
3位 三代和果
6位 門脇 葵

●剣道部

男子団体

1回戦 平田 4対0 飯南
2回戦 平田 0対2 大社
2回戦敗退

●卓球部

男子団体

1回戦 平田 1－3 松江高専

女子団体

2回戦 平田 0－3 松徳学院

●男子テニス部

団体戦 1回戦 平田 1－2 松江南

●男子バスケットボール部

1回戦 平田 51対100 松江北

●女子バスケットボール部

1回戦 平田 55対81 大社

●柔道部

男子団体戦 2位

女子団体戦 1位

男子個人戦

60kg級 久保丈也 2位
66kg級 高橋祈生 3位
81kg級 中居研心 3位
100kg超級 中前 元 1位

女子個人戦

52kg級 西藤心彩 1位
57kg級 三原真実 3位
池田璃音 3位
63kg級 福田さくら 1位
多久和柚香 3位

●サッカー部

1回戦 平田 2－0 吉賀
2回戦 平田 0－2 立正大淞南

●水泳

男子50m及び100m自由形

1位 大島吏緒

女子50m自由形 1位及び100m自由形

2位 神田美季

女子100m及び200m自由形

1位 野田陽彩

県選手権大会

●男子バスケットボール部

平田 32－70 出雲

●バレー部

平田 0－2 横田 2回戦敗退

●陸上競技部

【男子】

110mH 4位 高橋快斗
三段跳 1位 三島偉道
7位 山本悠樹

【女子】

100m 4位・200m 5位 玉木麻裕
走幅跳 7位・やり投げ 2位 高見真白
砲丸投 5位 伊藤綺華
6位 多久和心
円盤投 5位 多久和心
4×100mR 5位 三島・玉木・伊藤・高見
4×400mR 3位 高見・玉木・伊藤・佐々木

●駅伝部

男子

1500m 1位 岩崎輝翔
4位 井戸琥太郎
5位 富岡成望
7位 高橋宙暉

5000m 1位 岩崎輝翔
2位 富岡成望
4位 福岡健太
8位 井戸琥太郎

3000mSC 5位 渡辺結希
7位 岡 真優
8位 高橋宙暉

OP中高男子3000m 1位 遠藤光基
2位 幸野亮太
7位 今岡悟志
8位 田村 康

女子

800m 1位 佐々木葉音
2位 大浜歩花
5位 小村実加
7位 嘉藤 杏
1500m 1位 佐々木葉音
3位 大浜歩花
6位 小村実加
7位 嘉藤 杏
8位 三代和果

●柔道部

男子団体戦 2位

女子団体戦 2位

男子個人戦

60kg級 久保丈也 1位※
66kg級 高橋祈生 3位
無差別級 勝部壮真 2位

女子個人戦

48kg級 西藤心彩 1位※
63kg級 池田璃音 1位※

※男女個人戦優勝者3名は、3月19日に日本武道館で行われる全国高校柔道選手権大会に出場します。

●剣道部

男子団体

平田高校Aチーム・Bチーム
予選リーグ勝ち上がり
決勝トーナメント1回戦敗退
男子個人 持田健太 ベスト8

●男子テニス部

個人シングルス

2回戦敗退 中西、中上

●サッカー部

1回戦

平田 2－2 (PK 4－1) 出雲西

2回戦

平田 2－2 (PK 1－4) 出雲

中国大会

●駅伝部

男子

1500m 2位 岩崎輝翔
※インターハイ出場

女子

800m 1位 佐々木葉音
※インターハイ出場

●柔道部

男子団体戦 5位

女子個人戦

63kg級 福田さくら 1位

全日本ジュニア柔道体重別選手権大会
中国地区予選会

女子個人戦

63kg級 福田さくら 2位

中国高校柔道新人大会

男子団体戦 3位

●水泳部

男子50m自由形 3位・男子100m自由形 2位 大島吏緒

※インターハイ出場

女子200m 3位 野田陽彩

※インターハイ出場

全国大会

●駅伝部

令和6年度全国高等学校総合体育大会
陸上競技大会（インターハイ2024）

女子 800m 3位 佐々木葉音

男子第75回全国高等学校駅伝競走大会

35位 岩崎、石飛、富岡、幸野、
遠藤、福岡、古藤

女子第36回全国高等学校駅伝競走大会

43位 佐々木、福田、三代、小村、
大浜

●柔道部

全国高等学校総合体育大会柔道競技大会
（インターハイ2024）

63kg級 福田さくら 2位

国際大会

●柔道部

クリスマス杯エクサンプロヴァンス・
ジュニア国際大会（フランス）

63kg級 福田さくら 出場

ベルギー国際ジュニア柔道大会

63kg級 福田さくら 2位

その他大会

●野球部

春季野球大会

1次予選 平田 0対5 大田

第106回全国高等学校野球選手権島根大会

2回戦

平田 2－3×（延長10回）江津工業

島根県高等学校秋季野球大会一次予選

1回戦 平田 3－4 矢上

●駅伝部

島根県高等学校駅伝競走大会兼中国・
全国高等学校駅伝競走大会島根県予選会

男子 1位 2時間13分50秒

（岩崎、勝部、石飛、福岡、行武、
富岡、幸野）

区間賞 岩崎（1区）、勝部（2区）、
福岡（4区）、行武（5区）、
富岡（6区）、幸野（7区）

女子 1位 1時間17分16秒

（嘉藤、三代、福田、大浜、佐々木）

区間賞 嘉藤（1区）、三代（2区）、
大浜（4区）、佐々木（5区）

●男子テニス部

中国高等学校新人テニス大会

個人シングルス 2回戦敗退 中上

【文化系部活動】

●書道部

高文連書道コンクール

佳作

岡 百菜 加納 椰 西尾朱音

矢野響喜 松浦ひまり 糸川理心

福田真悠

●文芸図書部

○全国高等学校総合文化祭岐阜大会
（文芸部門：俳句）

出場 野津咲月

○島根県高文連文芸専門部文芸コンクール
短歌部門

優秀作 1位 野津咲月

佳作 森脇仁美、平井美桜

俳句部門

優秀作 2位 野津咲月

優秀作 3位 伊藤紗奈、石川愛葉

優良作 森脇仁美、野津咲月

平井美桜

佳作 飯塚春希、野津咲月、

笹岡翔太、伊藤紗奈

詩部門

優秀作 3位 平井美桜

※令和7年度全国高等学校総合
文化祭への参加が決定

優良作 野津咲月、森脇仁美

小説部門

優秀作 3位 野津咲月、平井美桜

佳作 森脇仁美

文芸誌部門

優秀作（全体の2位）

○高校生文芸道場中国ブロック大会文
芸コンクール

詩部門

最優秀賞 平井美桜

俳句部門

入選 伊藤紗奈

●吹奏楽部

○全日本吹奏楽コンクール島根県大会
高等学校Aの部 銅賞

○全日本アンサンブルコンテスト島根
県大会 高等学校の部

クラリネット六重奏 金賞

（中国大会への推薦状を獲得）

管打楽器八重奏 金賞

○全日本アンサンブルコンテスト中国
大会 高等学校の部

クラリネット六重奏 銀賞

●美術部

○高校生国際美術展 秀作賞

作品名『寧馨児』 金山千沙子

○高文連出雲地区絵画コンクール
特選

水 桃花、坂根颯人、久家海勇

○令和7年度全国高等学校総合体育大
会競技ポスター原画

レスリング競技

優秀賞 坂根颯人

佳作 高尾小有貴

男子バレーボール競技

佳作 水 桃花

カヌー競技

優秀賞 平井美桜、久家海勇

●写真

○高文連写真専門部 春季写真コンクール
特選

伊藤 凜 久家叶空 西田圭佑

金坂妃香里 藤原 心 安食真緒

金築佳穂 須田真衣 岡 結月

高橋瑠菜 脇坂 花

○全国高等学校総合文化祭岐阜大会

伊藤 凜、伊藤理音

○第31回全国高校写真選手権大会

（写真甲子園2024）

敢闘賞

伊藤 凜 伊藤理音 太田和可菜

○高文連写真専門部 秋季写真コンクール
特選

久家叶空 高橋昇大 安藤史織

金坂妃香里 大野優花 福岡心夏

加川愛唯 小形 漣 岡 央介

須田真衣 江角玲香 高橋瑠菜

○高文連写真専門部 島根県高校写真展

1・2年の部 1席 加川愛唯

※令和7年度全国高校総合文化祭
推薦作品

1・2年の部 5席 安食真緒

※令和7年度全国高校総合文化祭
推薦作品

●JRC部

高文連青少年赤十字メンバー秋季協議会
研究発表「未来をつくる私たちが今できる

こと」 優秀賞（県2位）

スポGOMI甲子園・島根県大会

7位 石川・福岡・原

●放送部

●第71回 NHK杯全国放送コンテス
ト島根県大会

アナウンス部門

三成優輝 準決勝進出

朗読部門

野津咲月 優秀賞 全国大会出場

創作ラジオドラマ部門

「私の一面」 出場 代表 野津咲月

●第28回 島根県高等学校総合文化祭
放送部門島根県大会

アナウンス部門 酒田彩音 優良賞

朗読部門 藤原ののか 奨励賞、

古川穂華 出場

●第10回 中国地区高校放送コンテス
ト鳥取大会

アナウンス部門 酒田彩音 出場